

年に一度の町内総会

5月23日(日)、東ヶ丘町内会館にて、年に一度の町内総会が開催された。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、例年のように町内会のイベントを開催することが難しかったようだが、その間、町内会館の改築に向けての議論など進めてきた。今回は、町内会長の川島さんからメッセージを頂いた。

町内会の皆様へ
東ヶ丘町内会の川島です。5月の総会は委任状



今まで本当にありがとうございました。(川島勤) 川島会長の仰る通り、今年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの町内会イベントが中止となった。筆者は昨年の8月に東ヶ丘に越してきたため、まだ一度も町内会の催しに参加したことがない。町内会館へ新聞を配りに行く度に、壁に貼ってある過去に開催されたイベントの写真を見る。運動会や餅つきなど、カサコの住民もイベントに参加していたようだ。普段近所に住んでいても話ず機会がない近隣住民の方々と交流できる良い機会だったのだろうと感じる。コロナ禍を経て、何が起るか分からない緊急事態の際に助け合えるつながりの重要性が増しているように思う。町内会の活動は、地域で支え合う基盤をつくるためにも欠かせない。川島会長の仰るように、創意工夫を凝らし、新しい町内会のある方を考える時がきたのかもしれない。(柴崎真直)

カサコで映画上映会

5月29日(土)、カサコで映画上映会が開催された。数多くの演劇作品を手掛け、世界で活躍する劇作家の小池博士氏が主宰する小池博士ブリッジプロジェクトの企画として、『壊れた時間のバラタ』が17時半から上映された。インドの古代叙事詩「マハーバラタ」を題材にした短編映画である本作は、8月20日から23日までなかのZEROホール

で公演される「完全版マハーバラタ」愛の章・風の章の「プロモーション企画」として、現在都内各地で上映されている。

今回の企画担当者である株式会社サイの岡村夏希さんは現在カサコの管理人を務める筆者の同級生だ。大学時代は一緒に映画制作に励んだこともある。今回は、岡村氏から「カサコの雰囲気と映画がマッチするのではないか」とお声がけ頂き、上映会開催に至った。



がんばれ横国生

先月の5月7日、カサコで毎年イベントを企画する横浜国立大学の学生団体ヨココがカサコでキックオフミーティングを行った。昨年は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されたようだが、今年から活動を再開するそうだ。今回は、建築学科4年生でリーダーの石井優歩さんからコメントを頂いた。ヨココとはカサコの1階の

まちに開いた交流の場を使い地域の暮らしの価値をより高めようと試みている横浜国大の学生グループです。コロナ禍の自分から動かなければ人と関わる事ができない状況を通じて、カサコという誰にとってもオープンで地域の人々によって時間をかけて設えられる空間の価値を再認識しました。今後のコロナウイルスの感染拡大状況を考慮しつつ、8月に企画を実行することを目標としています。企画立案とともに、この時期を今後活かすため、グループの活動の土台づくり、交流の場のデザイン方法について周辺エリアのリサーチを通じて模索していきたいと思えます。(石井優歩)

あかりの散歩日記

「みなとみらい公共空間実証実験」についてのお話。
ランドマークタワーとクインズスクエアの間にある大きな銀のモニュメントをご存知だろうか？中学の美術の教科書で「モクモク、ワクワク、ヨコハマ、ヨーヨー」という名前があることを知った。その下にあるグランモール公園にて、4月21日から4月28日まで、「働く」をテーマにした実証実験が行われていた。
コロナ禍でコミュニケーションの機会が減っている中で、ガチャガチャで出てきたテーマについて話すという斬新なアイデア。質問に答えながら楽しくアルコール消毒できるもの、仕事ができるドームなど、Vividな働き方をするみなとみらいエリアに向けてというテーマで新しい空間が展開していた。
室内ではなく、屋外にある公共空間としての面白い使い方が問われているような気が



した。(袴田あかり)

のげやまくん通信

のげやまくんは
この6月2日
10周年です。
これから
どうぞよろしく
おねがいします。
のげやまくん

おなじのげやまくんを
さがしてみな

東ヶ丘を飛び出し、横浜駅で糸つなぎ

東ヶ丘新聞

6月号

東ヶ丘新聞



先月5月23日、横浜駅西口でカサコを運営するコネクションオプザチルドレン(ココ)が主催するイベント「横浜西口で世界とつながろう!」があった。20cmで平和な世界を「」が開催された。コロナで世界へ旅することも、世界から横浜西口に訪れることも難しい今、西口のビブレ前にあるniiigoひろばで「糸つなぎ」を通じ人々がつながった。「糸つなぎ」とは、ココが主催する事業のひとつだ。短い糸を一人ひとりにつないでもらい、一本の長い「糸」にする。人と人が温かい気持ちで繋がることを体感でき、普段は目に見えない繋がりを見る化する。ことを目的としたプロジェクトだ。

イベント当日は世界を旅したゲスト達を招き、世界とつながるトークショーが開催された。旅先で「糸つなぎ」を実施した彼らに、人との出会いや異文化体験を中心に、ココの代表であり「糸つなぎ」プロジェクトの発起人である加藤功甫氏が話を伺った。昨年自転車で世界一周を達成し現在カサコに滞在する大成和義さん(ココのメンバーでマルタに語学留学をした袴田あかりさん)昨年までカサコで管理人を務め、キャンピングカーでアメリカ大陸を縦断したタクヤ・キョーヤ、そして、加藤氏と共にユーラシア大陸縦断を成し遂げた田澤儀高さんらが登壇した。niiigoひろばには様々な人が集い、38人が「糸つなぎ」に参加した。

今回のイベントの様子はYouTubeで閲覧可能だ。下のQRコードを読み取って是非ご覧頂きたい。(柴崎真直)



延期を乗り越え復活

5月30日(日)、カサコで世界の朝ごはんオンライン(ユーロランド編)が開催された。ユーロランドの朝ごはんは、先月の4月25日にカサコでの開催を予定していたが、政府によって発令されたまん延防止等重点措置を受け延期された。今回は、オンライン配信に切り替えることで開催に踏み切った。

今回作ったのはスティック状のトーストを半熟卵につけて食べる「エッグアンドソルジャーズ」。4月までカサコに住んでいたユーロランド出身のアイヴァンさんが子ども頃の食っていた朝ごはんだった。見た目に反して、意外と作るのにコツがある。参加者はアイヴァンさんのレシピを参照しながら各自自宅でエッグアンドソルジャーズをつくった。久しぶりに開催された世界の朝ごはんであったが、十数名の参加者が集まった。当日はお仕事でユーロランドに駐在しているスペシャルゲストを迎え、現地から中継をつないだ。普段は聞けない現地のリアルな情報が、参加者の知的好奇心を刺激した。現在、次回開催に向け企画中だ。(柴崎真直)



シリーズ化へまた一歩

今月もカサコで「たまには世界の話をしようよ」が開催された。ココのメンバーである津高政志さんが主催するこのイベントは、海外経験が豊富なゲストを招いて彼らのユニークな話を下に異文化について語らうオンライン配信企画だ。

29日(土)に開催された今回は、昨年自転車で世界一周した大成和義さんをゲストに迎えた。テーマとなった国は「キルギス」。居心地の良さに惹かれ、大成さんは3カ月間キルギスに滞在したそう。トークショーでは、大成さんが滞在期間の大半を費やしたという現地の日本人宿「さくらゲストハウス」での思い出について、パーソナリティの津高さんが話を伺った。

配信時は、当時大成さんと共にさくらゲストハウスに宿泊していた方々も参加した。キルギスという、日本から遠く離れた異国の地での経験を「家族愛」について考えたという大成さん。現地で芽生えた温かな絆について、様々なエピソードを交えながら津高さんが伺った。シリーズ化に向け、素敵なエピソードが加わった。(柴崎真直)

